

様々なリスクコミュニケーションの事例

報告者：鬼武一夫

タイトル：組合員リーダー向け「食品安全セミナー」
目 的：情報提供（説明）・ <u>情報共有・相互理解や信頼感の醸成・合意形成</u>
形式：①媒体作成・HP や印刷物への掲示 ②facebook、twitter 等での情報発信（双方向性） ③講演会・説明会 ④出張講座・意見交換会（双方向性） ⑤個別対応 ⑥研修 ⑦ <u>その他（参加型のセミナー）</u>
日時（回数）：2 回/1 年 開催時間は午前、午後の部でおおよそ 1 日
実 施 者：行政・ <u>事業者（団体）・消費者（団体）</u> ・教育機関・その他（ ）
対 象 者：行政・ <u>事業者（団体）・消費者（団体）</u> ・教育機関・その他（ ）
概要及び特徴 生協はくらしの安全や安心を求める消費者の願いに応える為に 1960 年代から食品の安全を守る取り組みを行っている。日本生協連は、国内で BSE 感染牛が確認される以前から、食品の安全を支える社会の仕組みの整備を求め、全国の生協や消費者団体とともに、食品衛生法の改正を求める署名活動などを行ってきた。その結果、2003 年食品衛生法の改正、食品安全基本法の制定が行われ、国際的な食品安全の考え方としてリスクアナリシスが法律に明記された。リスクアナリシスはリスク評価、リスク管理およびリスクコミュニケーションの 3 つの要素から構成されており、特にリスクコミュニケーションの重要である認識の下で、様々な活動を行っている。 その一つの取組として、2008 年から会員生協の組合員理事などのリーダーに向けたセミナーを開催している。 本セミナーは、地方自治体などの食品安全審議会委員や行政等による意見交換会等に消費者として参加したり、地域で学習会などの企画を行う生協役職員・組合員リーダーを対象に、食品安全について考えを深め、発言する力を養うことを目的に、学習と論議を行っている。放射性物質、BSE 対策、食品表示制度など、その時々タイムリーなテーマを設定し、各分野の専門家・有識者による講演とグループディスカッションを行っている。このセミナー開催後に、同様のテーマで地域で学習会が開かれることもある。これを通じて、各地で多くの消費者が食品安全についての考えを深め、様々なリスクコミュニケーションの場にも対応できる消費者を育成することをめざしている。 参考 URL